広げよう福祉の輪！

三徳だより

第１０７号　２０２２年（令和４年）
発行：社会福祉法人 三 徳 会
https://www.santokukai.com/

「百花繚乱」
花々から元気を
もらいました

特別養護老人ホーム　成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0053 品川区中延1-8-7　TEL.㈹03-3787-3616　FAX.03-3783-6580　santoku-seikou@ap.wakwak.com

品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0041 品川区戸越1-15-23　TEL.㈹03-5750-1054　FAX.03-5750-1055　santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp
杜松在宅介護支援センター　http://www.togoshiginza.net/togoshi/machi/topics/topics.cgi
〒142-0042 品川区豊町4-24-15　TEL.㈹03-5750-7707　FAX.03-5750-7709

品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ
〒142-0063 品川区荏原2-9-6　TEL.㈹03-5750-2941　FAX.03-5750-3695　santokukai@aw.wakwak.com
小山台在宅介護支援センター
〒142-0061 品川区小山台1-4-1　TEL.㈹03-5794-8511　FAX.03-5794-8512

品川区立平塚橋特別養護老人ホーム・ショートステイ
〒142-0054 品川区西中延1-2-8　TEL.㈹03-5750-3632　FAX.03-5750-3642　hiratuka-ow01@santokukai.com

品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」
〒142-0062 品川区小山7-14-18　TEL.㈹03-5749-7251　FAX.03-5749-7252
小山在宅介護支援センター　TEL.㈹03-5749-7288　FAX.03-5498-0646

２０２１年から２０２２年へ
季節は巡り新たな年を迎えました

　新型コロナウイルス感染症の流行は２０２０年の１月から始まり、２年以上の月日が流れました。この間、感染の波を繰り返し、２０２２年の１月には「オミクロン株」の急拡大により第６波が到来。再びご面会や外出を制限せざるを得ない状況となりました。
　そのような状況でも季節は巡り「春夏秋冬」を感じる暮らしがありました。今回は秋から冬へ、そして春へと季節の移ろいと共に過ごした皆さまの日常をお届けします。

◆ピアノの音色に魅せられて

毎週水曜日は、成幸デイサービスの恒例となった、ボランティアさんによる「ミニコンサート」が開催されます。クリスマスが近づいたこの日の選曲は「ジングルベル」、「遠くへ行きたい」、「トゥ・ヤング」でした。ボランティアさんの素敵な衣装にもご注目！

◆花々に囲まれた撮影スポット

ご面会記念に花々と一緒に記念撮影はいかがですか、とご家族にお知らせしたところ、皆さまから大変好評でした。ご覧のように職員がカメラマンになり、皆さま満面の笑顔で「はい、チーズ」。この花々はボランティアさんが制作し、４か所の施設に寄贈していただきました。

◆新しい吹奏楽演奏の楽しみかた

今回の戸越台中学校の吹奏楽部コンサートは、初の試みでリモート中継の演奏です。離れていても、臨場感あふれる演奏を楽しむことができました。ご利用者からの拍手と「アンコール！」の声は生徒さんにも届いたことでしょう。

◆寅のように元気で力強く

年末も近づいたある日。習字クラブでは、これから迎える年に期待をこめて「正月」と書きました。お手本よりも力強い文字は、「元気で新年を迎えましょう」という願いがこもっているようです。

◆２０２２年を迎えた元旦のお願いごとは…

戸越台ホームの８階に「天空神社」がお目見えしました。「今年は春から縁起がいいね」とお願いごとをした後は、窓から見える都会の青空を眺めて一休み。その後、ご利用者の皆さまは、元旦のおせち料理を堪能され、お屠蘇が振舞われました。

◆お楽しみ食　～クリスマス・お正月編～

コロナ禍で、ご利用者が腕を振るう団らん食やおやつ作りなどのイベントは縮小せざるを得ない状況でしたが、毎月の「お楽しみ食」で季節を感じながら、行く年を惜しみ新しい年に希望を馳せました。

メニュー

＜クリスマス＞

えびチキンピラフ／クリスマスミートローフ／キッシュ風／野菜のマリネ／クリーム煮／ミネストローネ／フルーツ／プチデザート

＜元旦＞

祝い雑煮／寿かまぼこ／テリーヌ／黄金焼／お煮しめ／柚子釜／日の出豆腐／数の子山椒合え／栗きんとん／黒豆／フルーツ／お屠蘇

日々、勉強です
在宅介護支援センター

長引くコロナ禍で在宅介護支援センターの研修は、ほとんどオンラインになりました。昨年秋の品川区介護支援専門員連絡協議会主催の「生活支援記録法」研修をした頃はZOOM初心者の受講者もいて、自宅の操作は不安という声もありました。しかし、回数を重ねるごとに、使いこなせるようになり、現在は様々な研修をリモートで受講して学びを深めています。オンライン研修は参加もしやすく、繰り返し受講できるものもあり、今は研修の主流となりました。

また、コロナウイルスは第６波のピークが過ぎ、３月には「まん延防止法等重点措置」が解除されましたが、未だ事態は好転せず、現在もご利用者の状況確認は電話か短時間での訪問としています。久しぶりに訪問させていただくと、会わなければ気づくことができない変化を知り、対面して生活を五感で感じとる大切さを実感しています。

今後も感染リスク対応を万全にとり、できる限りご利用者にお会いして話を聞かせていただきたいと思います。

品川保健福祉従事者実践・研究発表会
「家族の絆をもう一度」

発表：成幸在宅介護支援センター
令和４年２月４日／オンライン開催
（主催：品川介護福祉専門学校）

昨年に続きオンラインで開催された品川区保健福祉従事者実践・研究発表会で発表した在宅介護支援センターの事例です。

＜事例の概要＞

高齢者の中には、子どもに迷惑はかけられないと、限界が来ても頑張って生活を続けている方がいます。その頑張りが、時として子どもが親の生活や心身の変化に気づくチャンスを遠のけてしまうこともあります。

今回は、息子夫婦が年に数回しか実家に訪問していなかったために、両親の生活が困難になっていることに気づかず、介護保険サービスの利用により、生活に大きな変化が見られるようになった事例です。支援の過程で息子夫婦の意識も大きく変わり、様々な問題を一つずつ解決しようという意識が芽生え、両親が住みやすい環境で暮らせるようにと、心から望まれるようになりました。

親と子、それぞれの立場から意見を交わし、息子夫妻は両親の未来を考えて支援し、良好な親子関係も築くことができました。

お気軽にご相談ください
荏原障害者相談計画支援事業所

令和４年３月より、障害や難病等でお困りの方への相談援助を行う事業所を開設いたしました。在宅介護支援センターに併設している利点を生かし、荏原西地区のケアマネジャーや関係機関と連携しながら、対象となる方の介護保険への移行や併用がスムーズに行われるように支援してまいります。

サービスの対象となる方は介護保険と障害福祉サービスを併用している方、２号被保険者で障害福祉サービスを利用する方などになります。

障害福祉サービスに関ることや介護保険制度への移行など、どんなことでもお気軽にご相談ください。

荏原障害者計画相談支援事業所
（品川区指定管理事業）
所在地　品川区荏原２－９－６
電　話　０３（５７５０）３６３９
相談受付　月曜日～土曜日　９～１７時
（日・祝祭日、年末年始を除く）

まもなく法人創立４０年！
永年勤続表彰式

令和４年度は法人の創立40年を迎えます。この記念すべき年度を前に、永年勤続職員（非常勤・嘱託も含む）の表彰式が執り行われました。

今回は平塚橋ホームの開設時に入職した職員の勤続５年を始め、10年、20年と続き、勤続30年となった介護職員が表彰されました。表彰式では法人と共に歩んだ、30年にわたる功労を称え、参加者の皆さんからも先輩職員へ惜しみない拍手が送られました。

（写真撮影時のみ
マスクを外しています）

特集
敬老のお祝い

令和３年度の敬老式典はご家族と共にアットホームな雰囲気でお祝いしました。久しぶりにご家族と会えて話が弾み、皆さま笑顔で写真に納まりました。

いつでも自由にご面会できるようになるのがとても待ち遠しい日々ですが、この先も「米寿」、「卒寿」、「百歳」、「百歳以上」を始めとするご利用者の皆さまが、元気で過ごしていただき、ご家族との面会ができますようにと願っています。

今回も、様々な人生を歩んでこられた皆さまやご家族に、人生の思い出などのお話しを伺いました。

※各施設のお祝いの方々の人数は表のとおりです。

	米寿(88歳)	卒寿(90歳)	白寿(99歳)	新百歳	百歳以上
成　幸（定員 80）	3	4	2	2	6
戸越台（定員 72）	3	5	0	2	7
荏　原（定員120）	2	11	4	1	7
平塚橋（定員100）	4	4	1	0	6

成幸ホーム　和氣 ハル 様（１００歳）

ご長男の和氣稔様より寄稿いただきました。

母は大正11年２月20日、栃木県矢板市に七人兄妹の長女として生まれました。母からは幼い頃にお母さんを亡くし苦労が絶えず、「おしん」に似たような生活だったと聞かされたことがありました。24歳の頃に父と結婚、一男二女３人の子どもを授かり、私達が結婚するまで必死に育ててくれました。父の定年を機に日光から私達夫婦が住む品川に転居してきました。

私達はお店を営んでいましたので、料理上手な母は毎日食事を作ったり、時間を見つけては得意な手芸など楽しんでいました。月日が経ち徐々に体調が悪くなり、入退院を繰り返して足も弱り、自宅で介護するのが難しくなったので、89歳のとき埼玉県の施設にお世話になりました。施設で暮らすようになっても手を動かすことが好きな母は、カギ針で毛糸を編んだ洋服をキューピー人形に着せたり、施設の雑巾を作るなどいろいろと手伝い、頼りにされていました。遠方なので月に一度くらいしか会いに行けませんでしたが、行くたびに「歩けるようになったら家に帰れるからリハビリを頑張っている」と話をしていました。

その後母は車いす生活となりましたが、６年ほどそこで暮らし、地元の成幸ホームでお世話になることになりました。最初はなかなかなじめず泣かれましたが、段々に慣れてきて、習字クラブやレクリエーションに参加し、楽しく過ごすようになりよかったと思います。食事もなんとか一人で食べられ、こうして100歳を迎えることができたのも、ひとえに施設の皆様のお陰です。ありがとうございました。

コロナ禍がなければ兄妹家族一同で祝ってあげたかったです。残念でなりません。施設の皆様には日頃の心づかいを感謝しております。これからもよろしくお願い申し上げます。

戸越台ホーム　松尾 とく志 様（１００歳）

ご長男の松尾良一様より寄稿いただきました。

母は、山梨県中巨摩郡（現アルプス市）にある櫛形山の中腹にある村で８人兄弟の４番目として生まれました。家は農業と養蚕を営んでいたそうですが、母は虫が嫌いで手伝うのをかなり嫌がったため、餌となる桑の葉を桑畑から摘んでくることをやらされたようです。

若い頃には村の発展のため色々と手伝いをしたようですが、なかでも貯水池を造ったことが思い出で、今ではこの池が県民の森の「南伊奈ヶ湖」となっています。

当時の趣味として踊りの振り付けが好きで、村の集会や催し物があると演芸の担当として活躍していたようです。

実家にいるころは製糸工場などいろいろな職業についた母は、その後大井町にいる叔父を頼りに上京してきました。仕事をしながら通信教育で洋裁、和裁を学んで技術を習得し、冬近くなると毎年のように私にセーターを編んでくれたことを想い出します。

父と見合い結婚してからは外で働くことは少なくなり、家で内職をするようになりました。私の面倒をみながらでしたので大変だったのではと思います。

私が小学生の時、学校から帰ってくると家の中がなにやら様子がおかしいので聞いてみると、「テレビで大きな地震が起こるかもしれないと言っていたから」と家の荷物をひとまとめにして隅のほうに置いていたことがありました。母は用心深く、超がつくほどの心配性だったと思います。

こんな母ですが、今はホームに入り何も心配することなく過ごしていることと思います。ホームではよく歌を唄っていると聞いています。残りの人生をゆったりと過ごして欲しいと思います。

荏原ホーム　本田 ます子 様（１０４歳）

次女の本田千代子様よりお話を伺いました。

出身は山梨県上野原市で、７人の姉弟妹の長女として生まれました。東京の親戚の家が商売（薬屋、雑貨屋他）を営んでいたので、店の手伝いや家族のお世話等を手伝っていたようです。

５人の子どもに恵まれましたが幼くして２人を亡くし、長女が59歳の時に病死したのです。親より先に逝かれるのはとても淋しいと言っていました。

子どもの頃の思い出は、リメイクした手縫いのスカートをつくってくれたこと。自分のものは後回しだったと思います。父が没後は庭いじり。花が好きで「今日はあの花のつぼみが出た、咲いた」と嬉しそうに言いながら精をだしていました。大きな病気をした時は「こんな病気に負けられない」「こんなことにも負けていられない」という強い意志、強い気持ちで病気に打ち勝ってきました。

また、普段から歩けなくなったらおしまいだから、何としても自分の足で歩かなくちゃと言って体操にも取り組んでいました。娘として、好き嫌い言わず何でも食べる「好奇心旺盛」でかわいい笑顔あふれるおばあちゃんでいてくれてありがたかったです。

そういえば母が独身の頃、親戚が経営していたビリヤード場で「マッセ」という技の練習をしている写真が出てきました。あの時代にこの遊びをしていたのかと思うと「ハイカラさん」ですよね。夏には日傘をさして銀座に行っていたという話も聞いたことがありました。楽しかった思い出と苦しく辛い思い出が交差した人生だと思います。

残り少ない日々、穏やかに過ごせますよう元気でいて欲しい気持ちです。これからもよろしくお願いいたします。

平塚橋ホーム　大石 孜子 様（１００歳）

ご長男の大石克彦様より寄稿いただきました。

母は、幼少期を戸越銀座、青年期は荏原で過ごしました。京陽小学校高等科を卒業し、第一銀行本店に就職しました。毎年、仕事納めの際、当時役員であった渋沢氏（栄一の孫？）が皆に振る舞った、「鰻丼のおいしかったことが、忘れられない」と、いまでも一番の好物です。

父は青山師範を卒業し、最初に奉職した京陽小学校で教鞭を執っていました。その後、陸軍航空隊（熊谷）に入隊し、教官をしておりましたが、昭和20年春が過ぎると戦局は急を告げ、特攻隊に志願せざるを得なくなりました。特攻隊に編成されて基地を離陸し、母の住まいの上空で翼を左右に振る父の飛行機（98式直協機）を見上げて、母は「込み上げて来るのを抑えられなかった」。と語っていました。

母は矢吹、壬生から真室川へと父の赴任先に連れ添って住まいを移りました。３月10日の東京大空襲は宇都宮で黎明に薄紅色に染まった南の空を臨み、不安を募らせた。と語っていました。

昭和20年５月25日の空襲で父の実家（小山）は焼失しました。母の実家（荏原）は、祖父が炎のあがった焼夷弾を、手掴みで井戸に叩き込み、焼失を免れた。との武勇伝が残っています。父は復員後、公職追放の憂き目にあい、教員への復職は叶いませんでした。食料難と、頑是ない兄弟に、相当手を焼いたようです。五十代になると日舞に没頭しました。更に父と共に、水彩画教室（品川みづえ会）で八十代まで筆を執っていました。現在はスタッフの皆さんのお蔭で、健康を維持でき、毎日本を読んでおります。コロナ禍が収まったら、家族皆で、鰻丼を食べて百歳を祝えることを楽しみしております。

平塚橋ゆうゆうプラザだより

こんなときだからこそ

地域に元気を届ける「もりあげ隊」を結成！

よもや、よもや…。昨年に続き、今年もコロナと迎える新年になるとは。

乳幼児の元気な声、地域交流スペースで遅くまで勉学に励む学生、いきいきと体操・講座に参加する高齢者、ラウンジいっぱいに観客が溢れるコンサート、１階で住民や家族と一緒にイベントに参加する特養ホーム入居者。ここ、平塚橋ゆうゆうプラザには毎日、大勢の利用者がいて、活気がありました。

コロナ禍によって休館や一部利用制限となり、住民からは「ここに通うことが当たり前だったから寂しい」と再開を待ち望む声をたくさん頂戴しました。

そこで高齢者世代を対象に「もりあげ隊」を結成し、住民主体の活動４種類を新しく設けました。なかでも、「音楽に合わせて体操」では、「体操は苦手だけど馴染みのある曲に合わせてリズムよく楽しみながら体操できる」と大好評です。

秋からは人数制限等の感染対策を講じながら少しずつイベントを再開しました。「人生まだまだ彩りまショー」では12名の高齢者が世界アルツハイマー月間と重なったこともあり、オレンジカラーを一部着用し、これまでの人生観やこれからの抱負等を語ってくださいました。「昨年大病を患ったが、今はこうして歩けるようになった。人生、何があるかわからない。日々、周りの方に感謝しながら過ごしています」のスピーチに観客から拍手を浴びていました。

「しながわジャズコンサート」では第１部において特養ホーム入居者へ生演奏を届けようと、１階中庭で演奏し、窓を開放した２階から４階の入居者に音楽を届けました。コロナ禍だからこそ生まれた演奏スタイルとなりました。

先日、利用者から次のような言葉をいただきました。「このコロナ禍で私は逆に平塚橋ゆうゆうの活動が広がった。これまではカラオケだけだったが、活動できなくなった。しかし、ここが始めた活動に参加し始め、新しい活動、新しい出会い、新しい輪が広がり、とても楽しい。」「Withコロナ」によって新しい出会いの場を作ることができました。

私達はコロナに大変苦しめられました。しかし、コロナによって改めて「つながり」の大切さを感じました。ここに来れば誰かに会える、お話しできる。平塚橋ゆうゆうプラザの存在が少しでも皆様の安らぎの場となれば嬉しいです。

平塚橋ゆうゆうプラザは、地域の方々が今後とも安心してご利用できるよう努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

成幸ホーム　「買い物の極意」

今日は楽しい楽しいショッピングです。
昨年から続く新型コロナウィルス感染症の影響で外出もままなりませんでしたが、「まん延防止等重点措置」が解除されたので、今日は中延商店街で洋服を買うことにしました。
お店の方からこの洋服はお買い得ですよと言われると、「あらそうなの、どれも素敵だから迷っちゃう」と話され、とてもニコニコされていました。しかし洋服を選び始めると突然真剣な表情にかわり、洋服の生地を１枚１枚確認しながら、「買い物はいかに安くて良いものを見つけるかなのよ、昔を思い出すわ」とおっしゃっていました。
今日は買い物の極意を学ぶことができ、とても有意義な一日でした。

戸越台ホーム　「２年ぶりの職場訪問」

11月26日、戸越台中学校２年生３名の職場訪問がありました。
通常は、直接ご利用者と関わりながらの職場体験を行いますが、今回は職員へのインタビュー方式となりました。
介護の仕事、やりがいや苦労、介護職を目指した動機などの様々な質問があり、職員は日々ご利用者の笑顔や言葉に励まされていること。ご利用者の体調の変化を見逃さないようにすることが大切だと伝えました。生徒は職員の話にメモを取ったり、頷いたり、真剣に聞き入っていました。
この体験で「働くこと」を学び、将来の職業について考える機会になればと思っています。以前のように活発に中学生との交流ができる日をご利用者も待ち望んでいます。

荏原ホーム　「サロン・ド・エバラ」

コロナ禍の収束が待ち遠しい日々ですが、この時期は外気浴も敬遠しがちになってしまいます。そんな中、手先の器用な方が講師となって折り紙や塗り絵などを楽しむミニサロンを開催しました。
今回の集いは新年のカレンダー作りです。新しい幕開けにふさわしい縁起のよいだるまや末広がりの扇子を彩りよく、まずは塗り絵に取り組まれる方もいらっしゃいました。「初めは枠線に沿ってなぞってみて」、「ここは黄色を塗って」と講師役のご利用者から熱意がこもった言葉が…。完成した作品はフロアに飾り、鑑賞して楽しんでいただいています。「よくできているわね！」と感嘆の声が聞かれることもしばしば。
これからもこのミニサロンで何が始まるか目が離せません。

平塚橋ホーム　「品川蕪品評会に出品しました！」

みなさん、品川蕪をご存知でしょうか。
品川蕪とは江戸東京野菜のひとつで、明治時代まで栽培されたようです。地元の方のご尽力で、平成20年に復活しました。
昨年はコロナ禍ということで開催されなかった「品川蕪品評会」が令和３年12月26日に品川神社で開催されました。例年は小学校も参加していますが、コロナ禍のため今回はリモートで参加したそうです。
平塚橋ホームは初めての参加で、周りの立派な品川蕪に圧倒されて受賞は逃がしましたが、金賞を受賞した方に大きく育てるコツを伺いました。種まきの時期にヒントがありました。来年は金賞を受賞できるよう頑張りたいと思います！
ホームで収穫した品川蕪は味噌汁と酢の物にして美味しくいただきました。

小山の家　「小山の家の癒しです」

現在、小山の家では「アカヒレ」という魚を飼育しています。これは、コロナ禍の影響でお休みしていただいているボランティアさんから譲り受けました。コイ科の魚で大きさは３㎝ほどです。活きの良い魚で、とても綺麗な色が特徴的です。当初は11匹頂いたのですが、元気が良すぎて２匹は水槽から飛び出してしまい、気がつくとどこかに引っ越してしまいました。
現在は９匹となった水槽をご利用者が覗いては「可愛い」、「癒されるわね」と楽しんでいます。餌やりも楽しみの一つになっています。外には以前からメダカも飼育しており、近所の方や通りがかりの方が良く見ています。
生き物を飼うと成長が楽しみになり、可愛くてとても癒されます。

三徳会「経営改善プロジェクト」発進！

～よりよい職場を目指して明日へつなぐ～

三徳会は安定した経営の下、働きやすい職場環境や介護サービスの質の向上を図り、地域やご利用者に信頼される法人を目指しています。

この理想を実現させるために、令和３年の秋に経営改善プロジェクトチームを立ち上げました。

昨今、介護をとりまく環境は、人員不足や長期間にわたるコロナ禍の影響もあり、とても厳しい状況に置かれています。今回のプロジェクトは、このような課題に対し、職員が自ら行動して改善に向けていこうと、介護職員を始め、生活相談員、ケアマネジャー、看護師、管理栄養士、事務員などの多彩なメンバーで話し合いを続けてきました。

メンバー同士が自由に意見交換をする会議では、「なるほど！」「それ、いい案ですね」という賛同の声も寄せられ、中には「目からウロコ」と言うような発想から新しいアイデアが生まれたこともありました。

今後は目標に向かって、いよいよ実践へ移ります。

「経営改善プロジェクト」 私たちが目指す３つの柱

１．介護職員等の人材確保

＜目標＞ 職員誰もが働きやすい、魅力ある職場づくりを目指します。介護職員のみならず、介護補助業務職員や短時間パートの職員の採用も進め、やりがいを感じてもらえる職場にします。また、実習生の受入れや育成マニュアルを見直し、三徳会で働きたいと思えるような職場づくりをいたします。

２．ご利用者満足度の向上

＜目標＞ 介護の質と利便性の向上を図り、積極的に施設の魅力を発信します。介護職員の研修プログラムを充実させ、スキルを持った職員の増加による質の高いケアを目指します。また、ホームページの刷新やインスタグラムによる情報発信も行い、ご利用者や地域からも選ばれる施設にしていきます。

３．業務を見直し改善へ

＜目標＞ 現在、新型コロナウイルス感染症の対策等で職員の業務が増えています。その中で活用しているものに、「見守りセンサー」を始めとするＩＣＴ等の次世代介護機器があります。今後も機器が見守る利便性を事故予防に活用し、業務省力の実現を目指していきます。

職員リレーエッセイ

成幸ホーム
久保田　直樹

「縁」～えん～

私は三徳会で仕事をするのに際し、多くの「縁」を感じています。今回はその「縁」についてお話します。

私は本職に就く以前、自動車の販売会社の営業職をしていました。ちょうど戸越台ホームが開設された頃は、三徳会と成幸ホームは私のお得意様でした。その頃の私は、当然のことながら将来ここで仕事をするとは思ってもみませんでした。

それから結構な時間が経過し、私は思い切って介護業界に進もうと、ある企業の就職合同説明会に参加したところ、なんと「三徳会」のブースを見つけたのです。とても懐かしかったので、昔話でもしようかと座ったことが接点となり、その後はトントン拍子に入社が決まったという「縁」でした。その後、仕事を始めて間もなく、珍しいお名前の方がご入所され、どこかで聞いたことのあるお名前だと思いましたら、以前の仕事で関わりのあった方とわかり、こんな偶然の「縁」もあるのだな、と感じました。

また、三徳会の新人歓迎会では、職業も知らず共通の趣味でつながっていた友人とばったりと再会し、同じ法人で働いていたということがわかり、腰をぬかしたという「縁」もありました。

転職したのも何かの「縁」、そしてご利用者一人ひとりの出会いもこれまた「縁」だと感じ、この「縁」に感謝している今日このごろです。

編集後記

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株の出現で、年明けから急速に感染が拡大しました。市中感染が広がる中、クラスターが発生した施設や、在宅サービスでもご利用者や職員が罹患し、サービスの縮小や事業の一部を休止した施設がありました。皆さまには大変なご心配やご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

これからもすべての職員を対象に週１回の PCR 検査を実施し、ご利用者の体調管理や感染対策を一層強化し、皆さまが安心してサービスをご利用いただけるよう努めてまいります。

今後ともご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

今号の「三徳だより」は諸事情により刊行が大幅に遅れました。敬老特集にご寄稿いただいたご家族を始め、ご協力を賜りました皆さまに深くお詫び申し上げます。